

28年度 氷見市教育総合センターだより 第4報

仲間に学ぶ研修会

期日：7月27日(水)

講師 氷見市立比美乃江小学校
氷見市立西條中学校

教諭 大菱池 仁子 先生
教諭 栗原 千恵 先生

20代～30代の教員が先輩教員から学ぶ研修会を行いました。

大菱池先生からは「子供の感情をはぐくむ支援の在り方」、栗原先生からは「発達障害のある生徒のソーシャルスキルの指導の在り方」と題して、内地留学等で学ばれた内容の一端を実践的な演習を交えながら話していただきました。研修参加者の感想を紹介します。

「子供の感情をはぐくむ支援の在り方」から



・「感情の言語化」ができていないためにトラブルを起こしてしまう学級の子供の顔が浮かんだ。2学期からの子

供との接し方に生かしていきたい。

- ・子供の感情を受け止め、承認し、言葉で表出できるようにすることが大切であると、よく分かった。問題を起こす子供の行動だけに注目するのではなく、その内にある感情を理解できる教師になりたいと思った。

「発達障害のある生徒のソーシャルスキルの指導の在り方」から



・友達と問題を起こしてしまう子供に対するコミック会話やイラスト段階表、ナイスカード等の様々な実践を知

ることができ、自分にできそうなことを考え取り組めたらと思う。

- ・生徒の実態に合う支援をたくさん考え、実践されていてすごいと思った。自分もいろいろな方法を実践、改善しながら子供のよいところを伸ばしたいと思った。

道徳教育研修会

期日：8月3日(水)

演題 今求められる道徳教育 —特別な教科 道徳を考える—
講師 金沢工業大学教職課程 教授 白木 みどり 先生

白木先生を講師に迎え、次期学習指導要領改訂の方向性を踏まえた道徳科の目標や指導の在り方について研修を行いました。講演資料の一部と参加者の感想を紹介します。

特別の教科道徳がめざすものは・・・「考える道徳」「議論する道徳」への転換

- ・いじめの問題への対応の充実
- ・発達の段階を踏まえた体系的なものとする観点からの内容の改善
- ・問題解決的な学習、体験的な活動等、多様な指導方法の工夫

「特定の価値観を押しついたり、主体性をもたず言われるままに行動したりすることは、道徳教育が目指す方向の対極にあるものと言わねばならない」

「多様な価値観の、時に対立がある場合を含めて、誠実にそれらの価値に向き合い、道徳としての問題を考え続ける姿勢こそ道徳教育で養うべき基本的資質である」



参加者の感想

- ・「道徳は人間の生き方を学ぶとても身近な教科」と教えていただき、もっと楽しんで道徳をすればいいのだと感じた。子供たちの多様な考えを引き出せるよう、研鑽を重ねたい。
- ・道徳の学習指導要領の解説をしっかりと読むこと、思考過程を明確にして授業を構想することの大切さをワークを通して再認識することができた。



自ら考え、関わり合い、学びがいを実感できる授業づくりを目指して

氷見市立海峰小学校

1 研究内容 ～共に学び合う授業づくり～

(1) 学びの足跡が見える授業ノートづくり

「授業ノートの基本型」を使い、教師も子供も 45 分間の学びの足跡が見えるノートづくりを目指した。授業中の思考過程や気づき、参考になった友達の考え等、自分の学びをノートという形に残すことを意識させた。

(2) 学びを深めるウィズスタディタイム

関わり合いを深め、ウィズスタディタイムを充実させるためには、マイスタディタイムにおいて、一人一人がしっかりと自分の考えをもち、自分の考えを整理して説明できることが重要であると考えた。そこで、学習に必要なキーワードを「考えのツール」として、説明に必要なキーワードを「話すツール」として提示した。

① 「考えのツール」の活用

既習事項や子供たちがネーミングした考え方を「考えのツール」としてまとめ、全員にカードにして渡したり「考えのツール」として掲示したりした。自分の考えをなかなかもつことができない子供も、「考えのツール」を使うことで自分の考えをもつことができた。「前に学習したことを生かして解くことができる」だけでなく、「その中で自分はどの方法で考えるのか」「どの方法がやりやすいのか」を考える手立てになった。

② 「話すツール」の活用

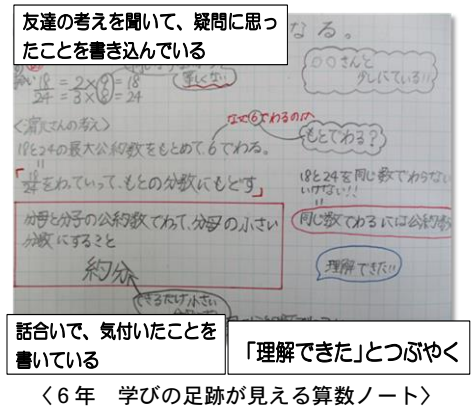
自分の考えをもっている、説明することに苦手意識がある子供は少なくない。そこで、「話すツール」を提示し、子供たちの話す抵抗を少なくした。この「話すツール」には筋道を立てて考えを話すための順序を表す言葉や単元を通して必要となる基本的な話型を示した。ツールに沿って話をすると、最後までしっかりと話すことができるので、子供たちは自信をもって話すことができるようになった。また、考えを説明しようという意欲が高まり、進んで発表する子供が増えた。

③ 関わりを深める学習形態

授業の中で、一人一人が考えを出し合い深めるために、ペア学習、学び合い学習、全体での話し合い等、学習形態を工夫した。ペアで話し合うことで、相手の考えとの類似点や相違点を見付け、自信をもって式の意味を説明することができた。全体での話し合いだけでなく、ペア学習や学び合い学習等をねらいに合わせて位置付けることにより、友達からアドバイスをもらって自分の考えをもったり、友達と自分の考えを比較したりしながら、考えを確かなものにする事ができた。

2 今後の取組

- ・これまでの研究を生かし、考えを深めたり広げたりするために、課題の設定、発問の組立、板書を吟味していく。
- ・「考えのツール」「話すツール」を算数科以外のどの教科でも作成し、利用していく。
- ・ペア学習やグループ学習、全体の話合いを子供の状況に合わせて取り入れていく。



〈6年 学びの足跡が見える算数ノート〉



〈1年 考え・話すツール〉

演題 子どもの発達を踏まえた幼保小連携の在り方

講師 北海道教育大学 教授 阿部 美穂子 先生



幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続を図るため、子育て支援課と合同で講演会を開催しました。

阿部先生は、園と学校のそれぞれの実情に応じて、子供の段差になるような具体的な場面を取り上げ、スムーズな接続になるような取組を、年間を通して計画的に実践し、継続していくことが望ましいと話されました。負担感をなくすためには、園と学校の壁を低くし、まず、大人同士が顔見知りになり、気軽に声を掛け合える関係になることが大切であると言われました。

講演内容の一部を紹介します。(当日資料より)

幼稚園・保育所から小学校に接続する際の「段差」

＝生活スタイルの段差

- ・机を共同で使う活動から、個々の座席が決まっている生活へ(動きの多い生活→机に「つく」生活)
- ・少人数活動から、大人数活動へ
- ・内容中心主義の日課から、時間枠中心主義の日課へ
- ・個人の活動選択の自由から、全体活動優先へ
- ・短い1単位活動時間から、長い1単位活動時間へ
- ・いつでも話しかけられる機会から、ルールに従って話す機会の限定へ

幼保・小の接続支援は具体的にどのように進めたらよいかく具体案としては>

- ・各学校の学校公開週間、幼稚園、保育所の保育公開週間に相互訪問
- ・各行事の際の参観
- ・参観の際には、活動の進め方や子供の様子を見ることはもちろん、施設設備についても確認し、その違いが、就学時に子供にどのような「段差」を生み出すかチェックする。(現場を見る意義)
- ・特に、3段階の支援の第2、第3レベルにある子供(特別な配慮が必要な子供)について、様子を見ながら共通理解する。

ふるさと学習研修会

期日：8月9日(火)

氷見漁港・魚々座・ひみラボ水族館・市立博物館の見学、「氷見の万葉」について

郷土(氷見)に対する理解を深めるとともに、教材としての活用方法を探るため、新規採用教員と転入教員、小学3・4年生担任等が、市内の主な施設を見学しながら説明を聞いたり、「氷見の万葉」について講義を受けたりしました。

以下、研修会参加者の感想を紹介します。

- ・氷見で生まれ育ったが、知らないことや昔から変わってきたことがたくさんあることを感じ、勉強になった。氷見の自然の中で育ってきたものを、これからも多くの人に発信し、知ってほしいと思った。
- ・他市から来たので、知らないことばかりだった。各施設では、熱い思いで語ってくださった講師の方の情熱に心を打たれた。もっとじっくり話を聞いたり、施設を見学したりしたかった。
- ・総合的な学習の時間や社会科、理科等で、ぜひ子供たちを連れて見学や体験学習をし、郷土愛というものを深められたらと思った。その際、学芸員や施設の方々に協力していただけるとのことで、とてもありがたいと感じた。
- ・子供たちに、まず氷見のよさを伝えていきたいと思った。言葉だけでなく、今日のように様々な施設を見学したり、体験し感じられる経験をさせたりしたいと思った。
- ・氷見は本当に自然が豊かで、人的資源も豊かで、素晴らしかった。



第 2 回生徒指導研修会

期日：8月9日(火)

演題 「ネットトラブルの現状と望まれる対応」

講師 西部教育事務所

主任生活指導主事 畑井 俊信 先生



県内でも SNS 上のコミュニティサイトで知り合った成人に、13 歳の少女が誘拐されるという事件が発生しましたが、ネットを介してのトラブルや犯罪等は喫緊の課題となっています。

今回の研修会では、畑井先生より小学生のスマホの所持率や出会い系サイトに起因する事犯の増加、SNS の利用状況や利用者の心理状態、ネット上での不適切な書き込みの現状等をグラフ・資料で、分かりやすく解説していただきました。また、ネットトラブルに対する具体的な対応の仕方や配慮すべき事項を考え合う場として、演習も行いました。【以下、参加者の感想の一部抜粋】

- ・自分も SNS を日常的に利用しているが、怖いと感じるときがある。子供たちには、ネット社会の便利さと危険性について、しっかり伝えていきたいと思った。
- ・実際にあった事例を踏まえて話していただき、子供たちの実態をもっと正確に把握する必要があると感じた。大人の目に見えないところで広がり、深い傷を与える恐れが身近にあることを実感し、ネットトラブルの怖さを改めて考え直すことができた。
- ・「分からない」「知らない」ではなく、どんなことが起きているのか知ろうとすること、自分でも実際に体験してみることが理解に繋がると思った。
- ・事例を基に演習を行ってみると、多面的に捉えることや適切に対応することが難しいと感じた。事実をきちんと捉え、学校全体で対応することが重要だと思った。
- ・事実確認をしっかりと行うことや組織で対応すること、ぶれない一貫した指導に努めること、保護者への説明を行うこと等、対応のポイントを再確認することができた。

新しい ALT です。よろしくお願ひいたします。



アメリア ナイト

Hello, my name is Amelia Knight. I am from the state of Florida in America. Florida is famous for its beaches and amusement parks, like Disney World. It has a rainy season, and most of the year it is very sunny and humid. My hobbies are reading, exercising, and baking.

I have been interested in Japan since I was a child. I watched anime with my father and read manga when I was in school.

I graduated from Wake Forest University in Winston-Salem, North Carolina with a degree in Japanese and linguistics.

As a student I studied abroad in Osaka for 2 months during the summer. I liked it so much that I applied for the JET program so that I could return to Japan.

Like Himi, my hometown is next to a beach so I really enjoy the beautiful ocean view everyday. I look forward to experiencing all the seasons in Himi.

I want to see red leaves in the fall, eat yellowtail in the winter and see cherry blossoms in the spring.

I am excited to get to know all of you and improve my Japanese as I teach English. If you ever see me outside of class please say hello!

アメリカ フロリダ州出身

趣味…読書、運動、パンを焼くこと